

64回生入学式

平成23年4月5日に第64回生41名の入学式が挙行されました。

学生の感想より

私達64回生は東日本大震災の影響で心配されていた入学式も41名全員で無事に迎えることが出来ました。被災地からきている学生も数名おり、様々な心境の中で式に臨みました。私たちは赤十字の看護学生としての誇りを持ち、これからの3年間1人もかけることなく、仲間を大切に、協力し助け合いながら頑張りたいと思います。

1年生 白石薫 市川奈穂



ナイチンゲール祭

5月12日はナイチンゲールの生誕の日です。ナイチンゲールは看護学生にとって偉大なる理論家です。そして彼女の看護の精神は、キャンドルの灯とともに学生たちに受け継がれているのです。



1年生によるはじめてのハンドベル演奏です。患者さん達を目の前にしてドキドキです。



2年生は落ち着いてすてきな音色を聞かせてくれました。



今回もたくさんの患者さんが集まってくれました。中には感激で泣いている方もいらっしゃいました。その姿に学生も感動して頑張らなくてはと誓います。

第54回 殉職救護員追悼式(慰霊祭)



5月26日に新社屋である日本赤十字社埼玉県支部にて、第54回殉職救護員追悼式が行われました。本校の2年生が参列し、献花のお手伝いや貞明皇后の御歌「四方のくに」を心をこめて歌いました。一生懸命に折った千羽鶴も献上しました。

学生の感想

殉職された方々の志とそれを引き継いだ赤十字救護員の方々の強い意志をととても感じました。また、今でも追悼式が実行されていることは大切なことだと考え、これから自分はどうしていけばよいのかを学び得る事ができました。

2年森谷優菜

特別講義

追悼式終了後に「私の戦争救護体験」のテーマで木村美喜氏に特別講義をいただきました。木村氏は1944年8月、16歳で日赤従軍救護員として、フィリピン・ルソン島に出征し、マニラ陸軍病院で看護にあたりました。1945年にはマニラ爆撃にあい、戦火の中傷病者と共に逃げまどいながら生還した。埼玉班26人のうち生還したのは10人であった。その体験を「私の青春―追想のフィリピン」として出版している。学生は木村氏の話に時に涙をながしながら聞き入っていた。

学生の感想より

特別講義に参加して、当時の悲しく、苦しい生活がとても伝わってきました。16歳で異国の病院で兵隊さんの看護をおこなって、敵軍の攻撃を受けて、生きている心地がしなかったと思います。そのような状況の中、同じ看護の仲間や日本にいる家族の存在はとても大切なのだろうと思いました。また、今、私たちが平和に生活していることは当たり前のことではなく、とても幸せなことだと実感しました。

2年大本亜由美

宣誓式

平成23年6月10日

宣誓式 …看護の道をめざす決意…

平成23年6月10日、第63回生の宣誓式を挙行了しました。今年度より戴帽式から宣誓式に変更しました。2年生43名は、赤十字章の付したナースキャップを戴き、看護の道をめざす決意を力強く宣誓しました。そして、G線上のエリアの調べによってキャンドルサービスを実施しました。キャンドルはフローレンス・ナイチンゲールの看護の精神を受け継ぐ意味があります。そして、G線上のエリアはG線の弦だけで演奏する美しい調べです。63回生の誓いの言葉どおりにこれから一本の道を進んでいこうとする彼らがとても気高くそして力強く感じた時間でした。

以下は63回生の「誓いの言葉」です。



63回生 誓いの言葉

看護という同じ夢を志し歩んでいるこの道。

ひとりひとりが自らの目標を持ち日々努力してきた。

しかし、慣れない環境の中で何度も挫けそうになり涙した日もあった。

初めての實習では、患者様のために何ができるか必死に考え、力不足を感じた。

グループワークでは、意見がまとまらずぶつかりあったこともある。そんな中で私達を支えてくれたのは、厳しくも熱心に指導して下さった先生方。温かく見守ってくれた家族。

そして何より、辛い時に励まし合い、一人ではないのだと気づかせてくれた仲間達。

そんなたくさんの方々の心の支えがあったからこそ、私は今ここに立つ。

看護の道を歩いていく限り、困難なこともあるだろう。

しかし、どんな時も笑顔を忘れず、仲間との絆を胸に、この道を歩いて行く。

そして赤十字看護師として、患者様の心の痛みを共感でき、明るい灯火となれるよう邁進していくことをここに誓う。

学生の感想

自分たちで考え練習した誓いの言葉を無事に述べることができました。キャップを戴いて、うれしい反面、看護師をめざす責任の重さを感じました。宣誓式を通して、保護者や先生方に「看護師になる」という決意を示すことができたのではないかと思います。(K・T、K・H)

人工呼吸器演習

平成23年6月15日



2年生の成人看護学方法論Ⅰで呼吸管理について学びました。講師は臨床の認定看護師と呼吸療法士でした。

手術前の呼吸訓練ではトリフローを体験しました。意外と続かずコツが必要でした。

人工呼吸器装着中の患者の看護は難しかったです。患者の生命を守るために機械の管理は重要です。とても緊張しました。呼吸器をつけながら清拭や体位変換することは技術が必要だと思いました。

注射演習

平成23年8月26日

3年生では、夏休み明けに翼状針の採血、静脈注射、点滴静脈注射の演習を実施しました。実習では注射は行いませんが、演習を体験することで、看護師さんが行っている注射技術に関心をもつことができます。

実習では看護師さんが安全を意識して行っていることを見学します。また、輸液の管理についても知識がないと患者さんの看護はできません。

さあ、後半の実習が始まります。



「はい、採血をしますね。手を握って下さいね。少し痛いけど我慢して下さいね。」

あれ？血管はここかな？ 角度はどうだっけ？
うまくはいるかなあ。

文化祭

平成23年8月26日

今年のテーマは「LINK～繋がり～」でした。

LINKには「絆・繋がり」という意味があります。人はひとりでは生きていくことはできません。誰かとの繋がりによって、支えあい生きていくのです。私たちは家族、友人、患者さんと様々な繋がりを大切にしていきたいです。また、「連鎖する」という意味もあります。力になりたいという気持ちが連鎖し、一人の力は小さいけれど大きな力になります。東日本大震災で強く感じました。



今年の豚汁はととも具たくさんでおいしかったです。募金もたくさん集まりました。



味自慢のやきそばです。病院の人もたくさん買っていました。



生命科学の藤沢先生ひきいるバンドです。先生のバンジョウ毎年楽しみです。



毎年、3年生の舞台発表が楽しみです。実習で時間がないはずなのに、一番エネルギッシュでした。やはり、時間の使い方と集中するコツを会得するのでしょうか。



今年も、教員による合格鶴のしおりが販売されました。全員合格した先輩に続けたいと在校生が争うように買いました。なかには、本校を希望する高校生の姿もありました。

今年も模擬店やバザーの売り上げは日本赤十字社埼玉県支部を通して、東日本大地震義援金を送りました。また、姉妹校である石巻赤十字看護専門学校学生会とユニセフにも送りました。

献血ボランティア

平成23年10月29日



川越クリアパークにおいて、第2回「赤十字ふれあい広場」が実施されました。本校の1年生21名が献血および赤十字事業の広報活動をPRしました。けんけつちゃんのぬいぐるみにも入って必死に訴えました。